

セミナー詳細



<p>9月30日(木)</p> <p>片寄俊秀 関西学院大学総合政策学部教授</p> <p>水辺と下町の再生 - 花鳥風月のまちづくり学」</p>	<p>未来都市が熱く語られた60～70年代。 当時語られた姿はほとんど実現したが・・・</p> <p>都市の中に豊かな自然と安心安全のくさびをどう打ち込むかは、最先端の研究テーマの一つ。 片寄先生は都市の観察と子ども参加の福祉のまちづくり研究、歴史的な町並みの復活、里山の保全活用、美しい川や海を取り戻す研究を、学生たちとともに進められています。</p>
<p>10月14日(木)</p> <p>三輪泰司 地域計画建築研究所取締役会長 京都造形芸術大学客員教授</p> <p>まちづくり新世紀」</p>	<p>未来自分の住んでいる町で、仕事場のある街で、或いは遊んでいる巷で、“まちづくり”だと考えもせず、夢中で取り組んだ事件を“意識”して振り返ってみますと、まちづくりって何かが少し分かってきました。</p> <p>地域おこし、ビジョンづくり、政策提案、実現化などシンクタンク、コンサルタント事業などに永年関わられた氏の経験から、深く、そして幅広いお話が伺えると思います。</p>
<p>10月28日(木)</p> <p>梶浦恒男 平安女学院大学 生活環境学部教授</p> <p>ストック時代の集住と 街づくり」</p>	<p>スクラップ・アンド・ビルトを続けてきたフロー中心のハウジングに代わって、既存の住まいやまちを重視するストック時代を考えてみる</p> <p>いま住まいをめぐる様々な状況が大きく変わりつつあります。ストック（既存の住居）を重視する方向への転換です。様々な視点から提案を伺えると思います。</p>
<p>11月12日(金)</p> <p>南條洋雄 南條設計室 代表</p> <p>美しい国づくり - 建築家に何ができるか」</p>	<p>まちづくりの重要性は十分理解できて、日常の業務においてそれを実践する難しさを感じている建築家も多いと思いますが、景観法の施行に伴い美しい国 美しい街を実現するためには、建築家の果たすべき役割が益々重要となります。</p> <p>JIAまちづくり憲章の解説や建築家大会2004 東京での議論を踏まえて、これからの建築家の街づくりにおける役割について、ブラジルクリティシティ市の事例を交えて提起します。</p>
<p>11月26日(金)</p> <p>松岡拓公雄 滋賀県立大学環境科学部教授</p> <p>景観再生計画」</p>	<p>高度成長時代、バブル時代を経て環境再生の時代に入り、国をあげての景観への取り組みが動き出した現在、いくつかのプロジェクトや経験を通して今後の都市や生活空間がおりなす景観への行方を探る</p>
<p>12月3日(金)</p> <p>藤本昌也 現代計画研究所 代表、 関東学院大学工学部教授</p> <p>建築家は街づくりに 貢献できているのか」</p>	<p>街づくりにおける建築家の役割の重要性を、現在私が取り組んでいる実施プロジェクト「宇部市中心市街地再生事業」を通して、お話ししたいと思います。</p> <p>当事業は、平成11年に始まり、現在、基盤整備の進行とあわせて、すでに数棟の建物が建設されています。</p>